

2013年12月期 決算説明会

2014年2月18日
JUKI株式会社
取締役社長 清原 晃

Mind & Technology

JUKI
Mind & Technology

目次

第1部 2013年12月期(2013年度) 業績の概要

- 1. 業績推移・配当 3
- 2. 経常利益増減要因 5
- 3. 主要財務項目推移 6
- 4. キャッシュ・フロー 7
- 5. セグメント別業績推移 8

第2部 JUKI構造改革プランの実績

- 1. JUKI構造改革プランの概要 13
- 2. JUKI構造改革プランの実績 16

第3部 2014年度の事業計画と重点施策

- 1. 事業計画・環境認識 18
- 2. 通期業績予想・経常利益増減要因 21
- 3. 重点施策 23

第1部
2013年12月期(2013年度)
業績の概要

売上高は、縫製機器事業がアジアの新興国地域で大幅に増加したことに加え、円安基調で推移したこと等により前年同期比25%増収。1Qに実施したバリューチェーン構造改革によるコスト削減効果等も加わり、2Qから全利益項目で黒字転換し、3Q以降は収益力が更に向上

(百万円) [参考]

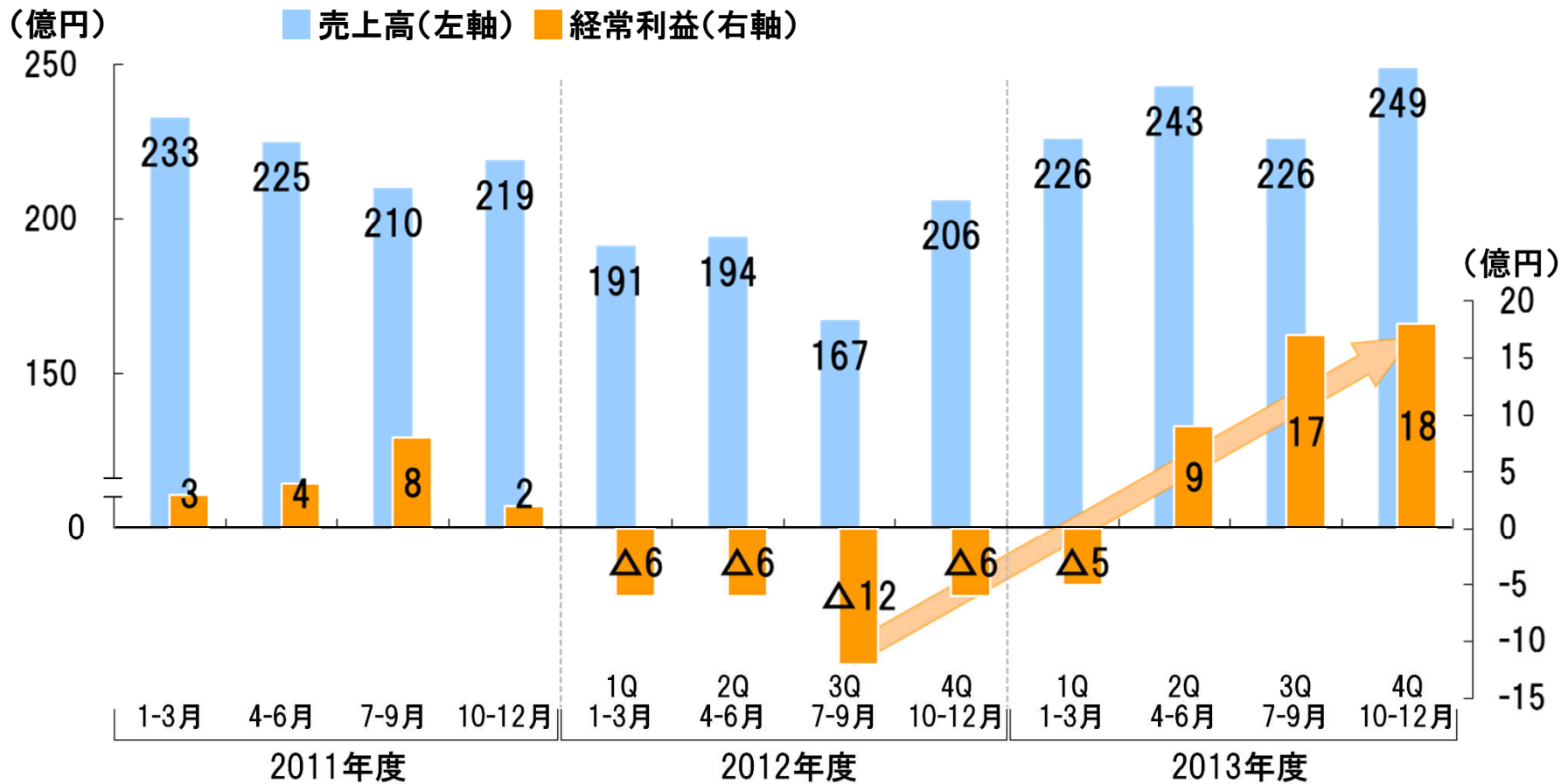
(百万円)

	11/3期 (10年度)	11/12期 (11年度)	12/12期 (12年度) [A]	13/12期 (13年度) [B]	前年同期比 増減額 [B-A] (増減率)	13/12期(2013年度) 四半期実績				
	10年4月- 11年3月	11年4-12月	12年1-12月	13年1-12月		1Q	2Q	3Q	4Q	
売上高	89,596	65,326	75,831	94,385	18,554 (24.5%)	22,624	24,298	22,602	24,861	
営業利益	785	815	△1,451	5,151 (5.5%)	6,602	255	1,247 (5.1%)	1,841 (8.1%)	1,808 (7.3%)	
経常利益	1,174	1,374	△2,996	3,878 (4.1%)	6,875	△531	902 (3.7%)	1,718 (7.6%)	1,789 (7.2%)	
当期純利益	2,467	726	△8,342	3,006 (3.2%)	11,349	* △2,128	758 (3.1%)	1,516 (6.7%)	2,860 (11.5%)	
配当	3円/株	3円/株	0円/株	0円/株		2013年度の配当につきましては、誠に遺憾ながら見送りとさせて頂く予定です				
為替 レート	ドル ユーロ	84円 111円	79円 111円	80円 103円	97円 129円	17円 26円	91円 120円	98円 127円	98円 130円	102円 140円

*為替レートは営業利益に影響する期中平均レート

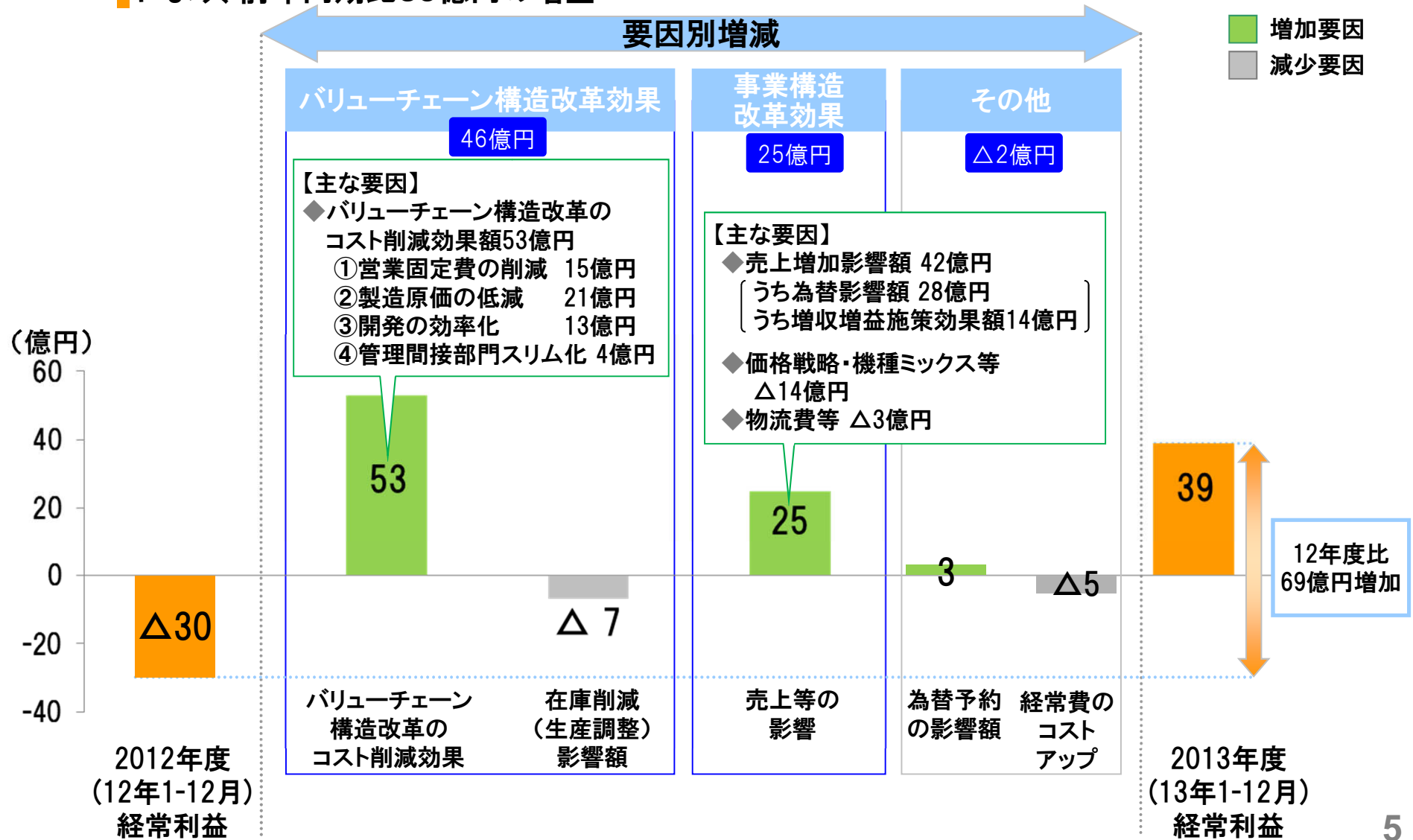
※13年度1Qの特別損失(15.4億円)の内訳:希望退職者の募集による特別退職金14.6億円、その他0.8億円

売上高、経常利益ともに2012年度3Qをボトムに、大幅改善
2013年度3Q以降は収益力が向上し大幅増益



為替レート (ドル)⇒ (82円) (81円) (77円) (77円) (79円) (80円) (78円) (83円) (91円) (98円) (98円) (102円)

在庫削減影響が△7億円あったが、コスト削減効果(53億円)と売上等の影響(25億円)などにより、前年同期比69億円の増益



自己資本比率は10.1%に上昇。在庫は期末に円安になったため増加したが、為替影響を除くと59億円減少。有利子負債は47億円減少

	12/12期末 (12年12月末) [A]	13/12期 (13年12月末) [B]	増減額 [B-A]	
総資産	110,341	113,189	2,847	
純資産	4,934	11,806	※1 6,872	
自己資本比率	4.2%	10.1%	5.9%	
売上債権	21,193	24,879	※2 3,686	
在庫 (在庫回転期間)	43,592 (6.9ヵ月)	44,328 (5.6ヵ月)	※3 736 (△1.3ヵ月)	
仕入債務	10,112	11,875	1,763	
有利子負債	80,172	75,508	※4 △4,665	
現預金	8,066	6,254	△1,811	
為替レート (期末)	ドル	87円	105円	18円

※1【純資産の増加額69億円の
主要内訳】

- ①利益剰余金+30億円
- ②為替換算調整勘定+33億円
- ③有価証券評価益等+6億円

※2【売上債権】

- ・うち為替影響額+3,896百万円
⇒実質減少額210百万円

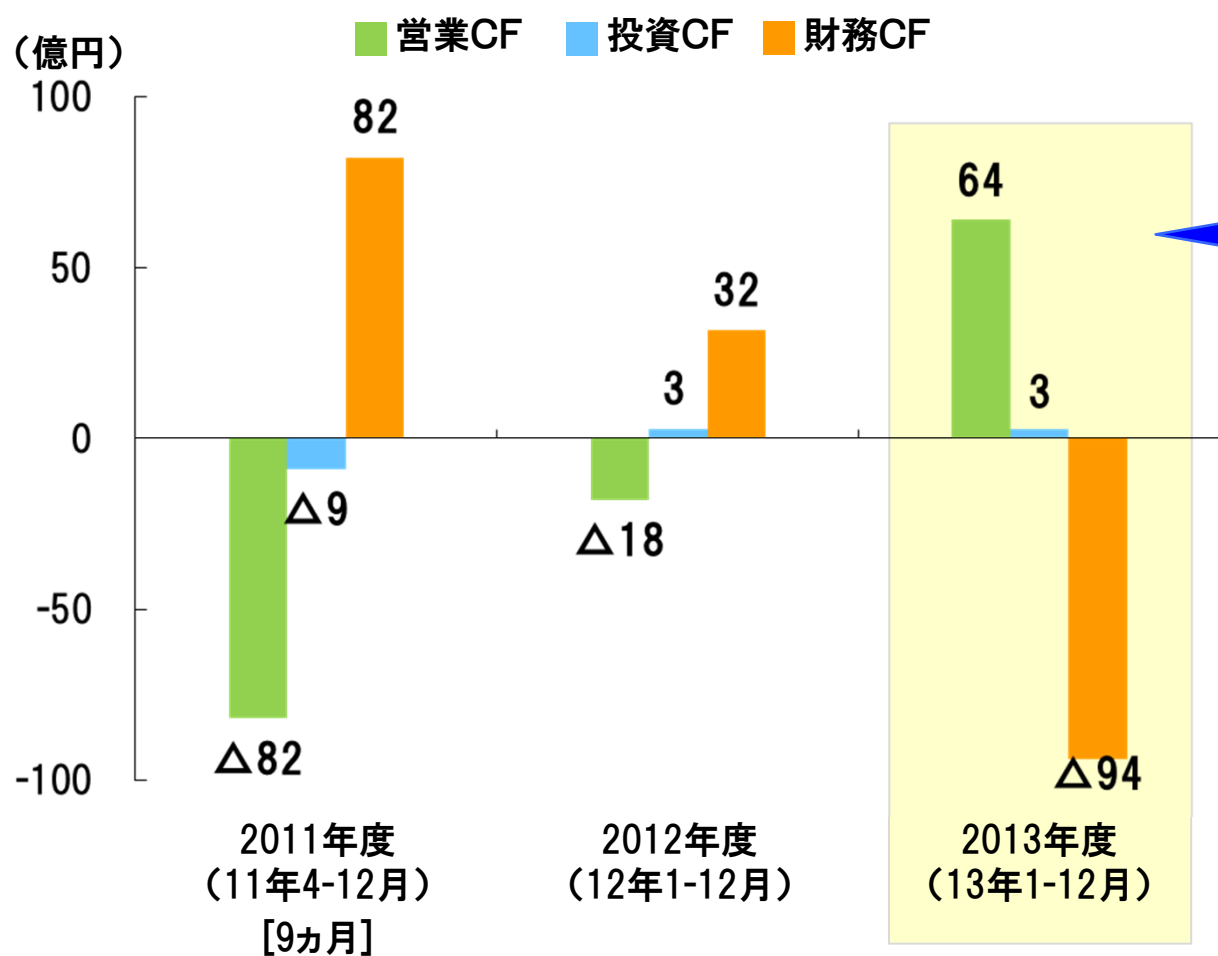
※3【在庫】

- ・うち為替影響額+6,631百万円
⇒実質減少額5,895百万円
- ・在庫回転期間:1.3ヵ月減少

※4【有利子負債】

- ・うち外貨建借入に対する
為替影響額+4,242百万円
⇒実質減少額8,907百万円

営業CFは在庫削減等により、プラス64億円となり大幅改善
 これにより、財務CFはマイナス94億円



2013年度 キャッシュ・フロー(要約)

(億円)

営業CF	64
在庫	59
減価償却費	29
退職金等支払い	△28
その他	4

投資CF	3
設備投資	△8
固定資産売却	8
その他	3

財務CF	△94
-------------	------------

縫製機器は、アジアの新興国地域での大幅な販売増と円安影響により増収
 産業装置は、前年1Qのタイ水害復興需要(10億円)の反動があるも、前年同期比23億円増収
 (百万円) [参考] (百万円)

	11/3期 (10年度)	11/12期 (11年度)	12/12期 (12年度) [A]	13/12期 (13年度) [B]	前年同期比 増減額 [B-A] (増減率)	13/12期(2013年度) 四半期実績			
		決算期変更 のため 9カ月決算				1Q	2Q	3Q	4Q
	10年4月- 11年3月	11年4-12月	12年1-12月	13年1-12月		13年1-3月	13年4-6月	13年7-9月	13年10-12月
縫製機器	60,267	42,460	52,424	68,836	16,412 (31.3%)	16,492	17,177	16,423	18,744
産業装置	22,437	17,210	16,480	18,826	2,346 (14.2%)	4,414	5,383	4,527	4,502
その他	6,891	5,655	6,926	6,723	△203	1,717	1,738	1,652	1,616
合計	89,596	65,326	75,831	94,385	18,554 (24.5%)	22,624	24,298	22,602	24,861

13年度2Q以降、全事業部門で黒字転換
縫製機器は、在庫調整が2Qまでに完了し、3Q以降は収益力が大幅に向上

(百万円) [参考]

(百万円)

	11/3期 (10年度)	11/12期 (11年度)	12/12期 (12年度) [A]	13/12期 (13年度) [B]	前年同期比 増減額 [B-A]	13/12期(2013年度) 四半期実績			
		決算期変更 のため 9カ月決算				1Q	2Q	3Q	4Q
	10年4月- 11年3月	11年4-12月	12年1-12月	13年1-12月		13年1-3月	13年4-6月	13年7-9月	13年10-12月
縫製機器	1,688	2,101	△503	3,840 (5.6%)	4,343	△104	566 (3.3%)	1,649 (10.0%)	1,729 (9.2%)
産業装置	751	527	△1,029	419 (2.2%)	1,448	△144	314 (5.8%)	123 (2.7%)	126 (2.8%)
その他	59	330	333	269 (4.0%)	△64	90	103 (5.9%)	74 (4.5%)	2 (0.1%)
調整額	△1,324	△1,584	△1,796	△651	1,145	△373	△82	△129	△67
合計	1,174	1,374	△2,996	3,878 (4.1%)	6,875	△531	902 (3.7%)	1,718 (7.6%)	1,789 (7.2%)

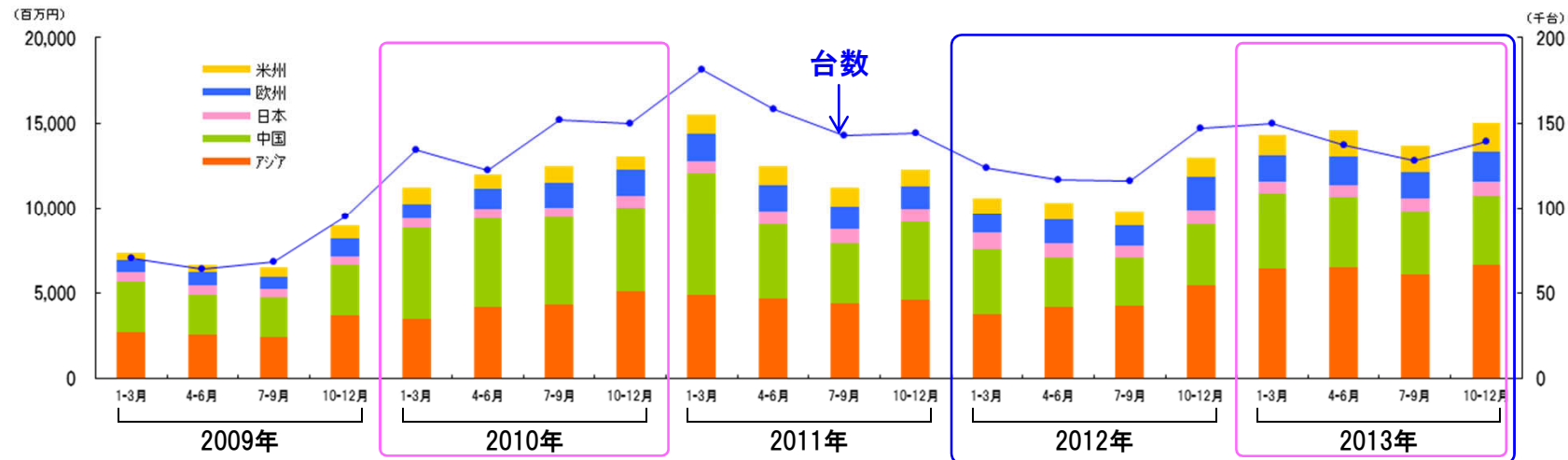
()は売上高経常利益率

(参考①)

セグメント別業績 地域別売上高(縫製機器)

アジアの新興国地域において、産地移動や米州・日本等向けのアパレル需要回復にともなう設備投資需要が大きく伸びたことに加え、円安基調の影響もあり大幅に増加

【縫製機器:工業用マシン製品の地域別売上高推移】



【売上高:前年同期比較】

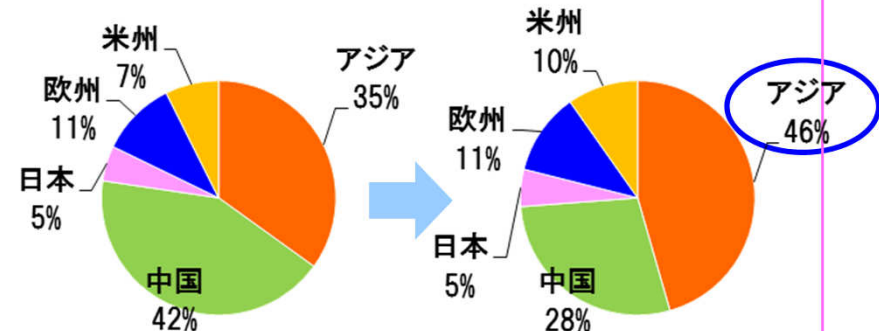
(億円)

	2012年 (1-12月)	2013年 (1-12月)	増減額	増減率
アジア	177	266	89	50.3%
中国	131	165	34	26.0%
日本	33	30	△3	△9.1%
欧州	56	66	10	17.9%
米州	40	57	17	42.5%
合計	437	584	147	33.6%

【売上高構成比率:2010年との比較】

2010年(1-12月)

2013年(1-12月)



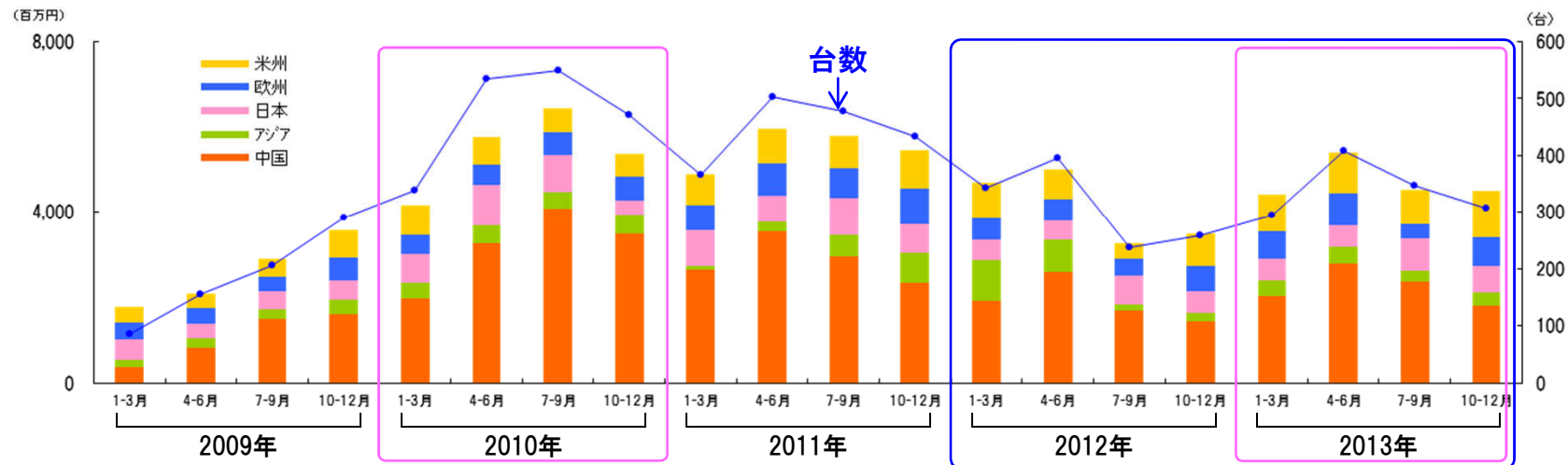
(注)月次の工業用マシン製品の販売数字を集計したものであり決算数字とは合致しない

(参考②)

セグメント別業績 地域別売上高(産業装置)

中国及び欧米での売上高は徐々に回復し、LED市場向け製品の販売も増加
アジアはタイの水害復興需要の反動により、前年同期比減少

【産業装置：地域別売上高推移】



【売上高：前年同期比較】

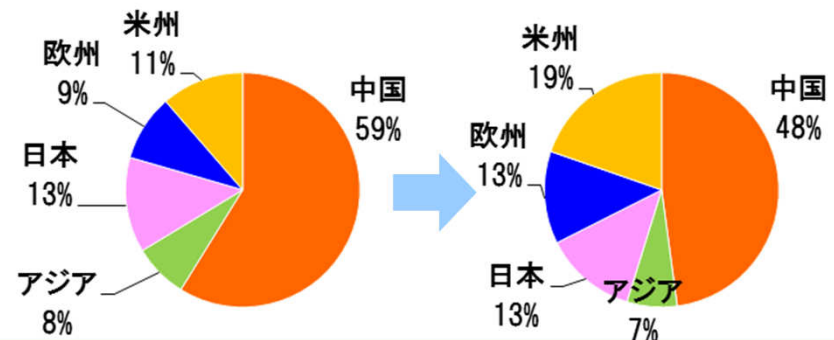
(億円)

	2012年 (1-12月)	2013年 (1-12月)	増減額	増減率
中国	76	90	14	18.4%
アジア	※ 20	13	△7	△35.0%
日本	22	24	2	9.1%
欧州	20	24	4	20.0%
米州	27	37	10	37.0%
合計	165	188	23	14.2%

【売上高構成比率：2010年との比較】

2010年(1-12月)

2013年(1-12月)



※タイの水害復興需要(約10億円)を含む

(注)月次販売数字を集計したものであり決算数字とは合致しない

第2部

JUKI構造改革プランの実績

**JUKI構造改革プラン
(2つの構造改革)**

1. バリューチェーン構造改革 [コスト削減施策]

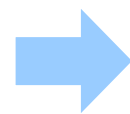
2. 事業構造改革 [増収増益施策]

1. バリューチェーン構造改革 [コスト削減施策]

損益分岐点売上高の引き下げにより、2012年度と同水準の売上高でも黒字を確保できる体制の構築を図る

■ 4つの業務プロセス[(営業・製造・開発・管理)=バリューチェーン]において、
聖域なき固定費・変動費を削減

- ① 営業固定費の削減
- ② 製造原価の低減
- ③ 開発の効率化
- ④ 管理間接部門のスリム化



損益分岐点売上高
の引き下げ

◆ 上記施策を受けた人事施策および
在庫削減によるキャッシュ・フロー改善の実施

2. 事業構造改革 [増収増益施策]

トップブランドを有するグローバル企業として更に成長していくための強い事業基盤の構築を図る

- マーケット戦略の選択と集中により、縫製機器事業、産業装置事業ともに経営資源を成長市場・得意領域に集中投入

① 縫製機器事業：重点市場と事業領域の拡大

1 重点市場	東南アジア・南アジア等の成長する新興国へ体制をシフト
2 重点事業領域	ノンアパレル、ニット、パーツ、家庭用ミシンを強化
	布帛は自動機の営業を徹底
	大手顧客の特注開発業務にも注力(事業領域拡大)
重点市場への販売体カシフト	アライアンスによる事業領域の拡大

② 産業装置事業：得意領域への重点化と事業領域の拡大

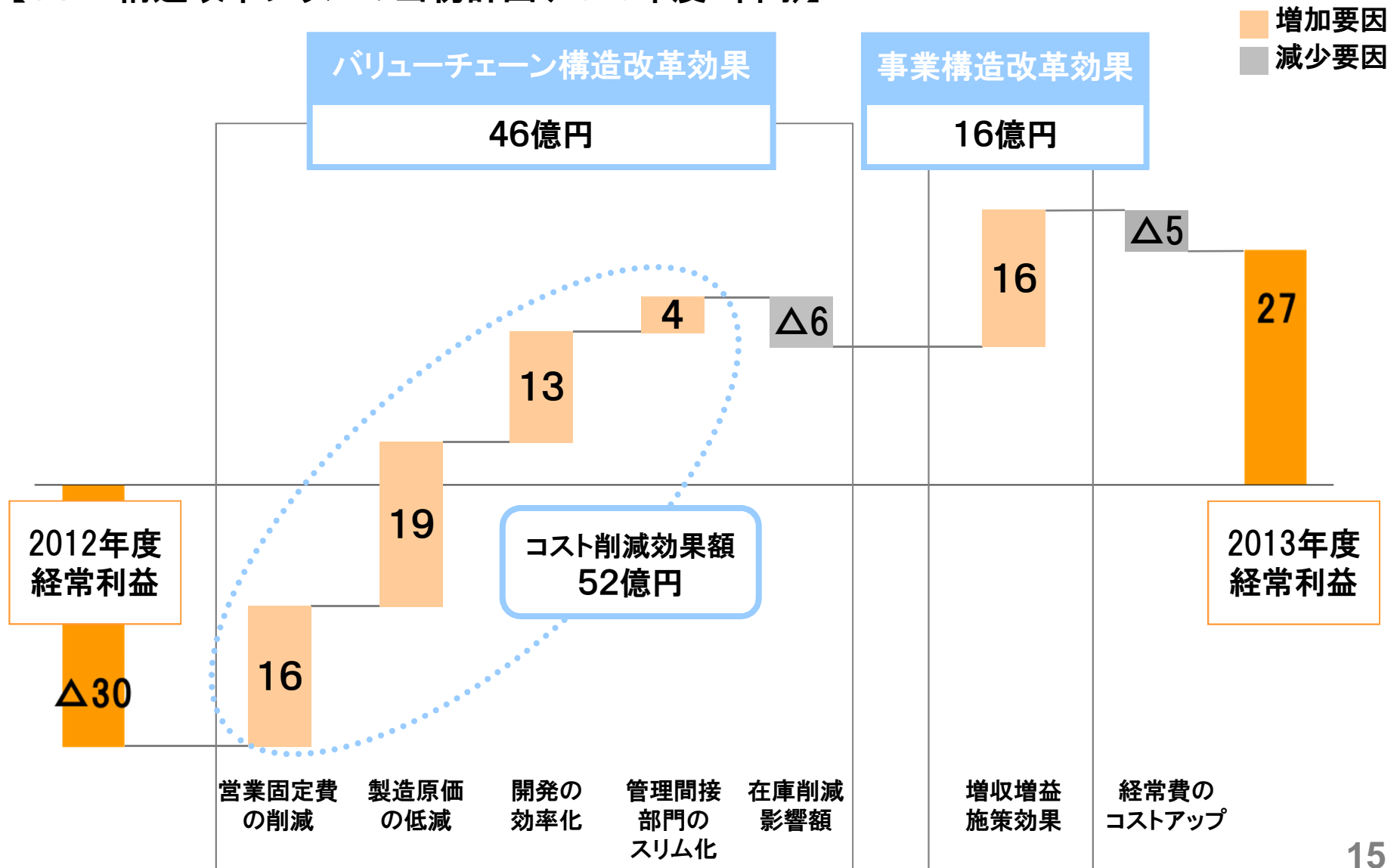
1 得意領域	汎用ライン等に特化(LED市場の攻略等)
	… チップライン
2 事業領域拡大	省人化・省力化市場での販売展開
重点市場の販売体制強化(代理店体制の再構築)	アライアンスによる事業領域の拡大

③ 重点市場への販売体カシフト

増収増益施策を実施

【JUKI構造改革プランの当初計画(2013年度 年間)】

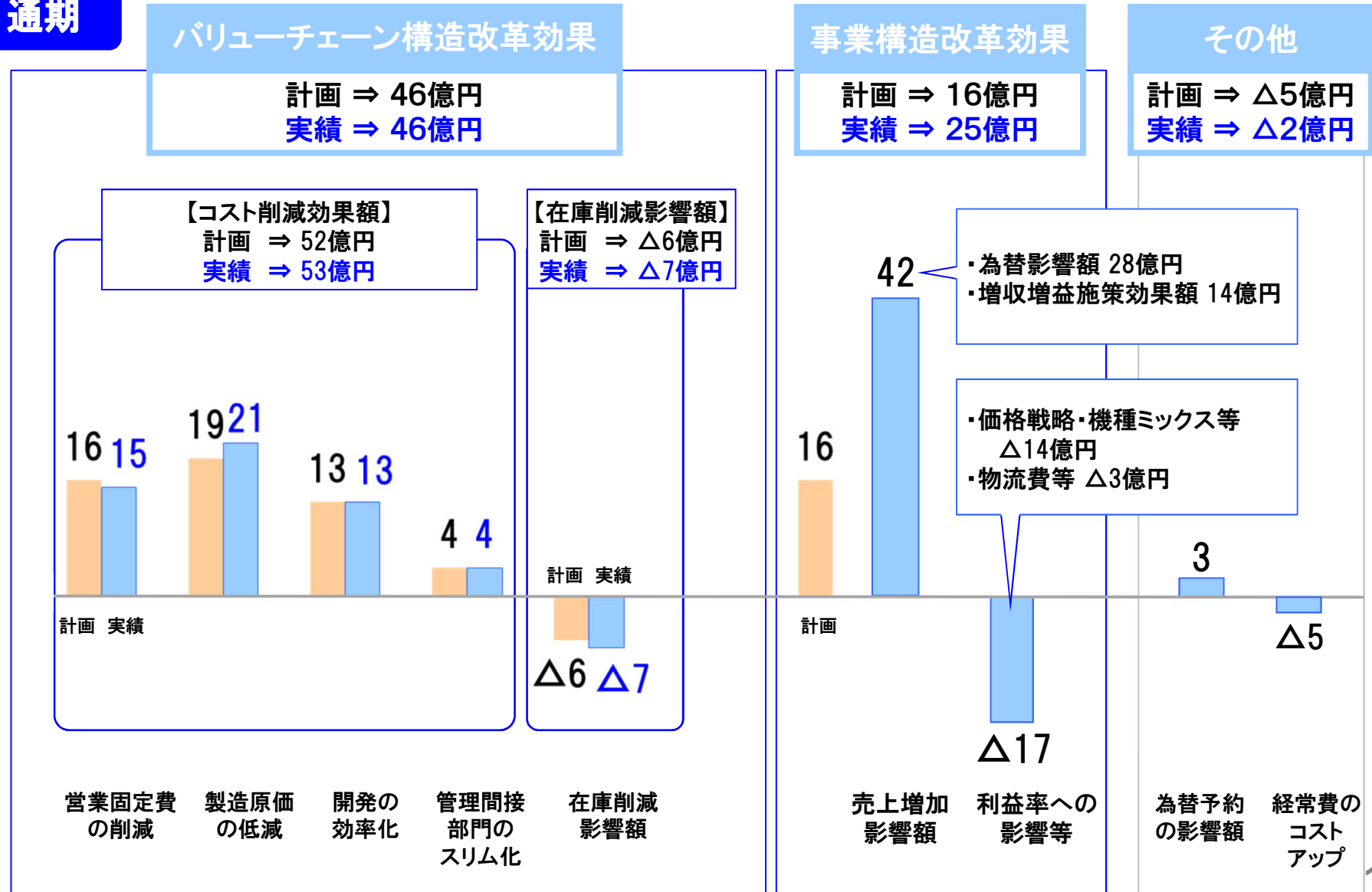
(単位:億円)



■ 通期計画 ■ 通期実績

(単位:億円)

通期



第3部

2014年度の事業計画と重点施策

2013年12月

JUKIは創立75周年を迎えました

2014年度

100周年に向けて残り25年のスタートの年

「グローバルなものづくり企業として100周年を、さらに21世紀を生き抜くことができる強い企業」の実現を目指す

持続的に収益を上げられる
「しっかりとした事業基盤」
の構築

グローバル企業としての
「事業戦略の推進を担う
人材育成」

持続的に収益を上げられる「しっかりとした事業基盤」を構築する

(1)縫製機器事業

- ・JUKIの得意分野である布帛は堅持し、市場成長が期待できるノンアパレル、ニット、自動機等で事業領域を拡大
- ・東南アジア、南アジア等の新興国への産地移動を的確に捉え、ビジネスチャンスを拡大。中南米、アフリカ、中近東での販売拡大にも注力

(2)産業装置事業

- ・SONYグループとの統合により、検査機・印刷機等を加えたラインソリューション営業を展開し、事業領域を拡大
- ・SONYグループ関連の顧客増加に加え、これまでの未攻略市場の顧客開拓を加速

(3)グループ事業

- ・第三の事業セグメントとして、受託加工事業を拡大
- ・グループ会社の精密加工技術や精密鑄造ノウハウを活かし、国内での受託案件を獲得し、また、各社間の連携を強め事業を拡大

環境認識

- 米国は順調に回復し、欧州の財政危機は緩和
- 中国は、減速ながら安定基調
- アジア新興国は、緩やかな成長
(一部の国では通貨安の影響が出現)

【リスク】

- ・米国の緩和縮小
⇒新興国の通貨安
- ・欧州の財政危機再燃
- ・国際紛争等

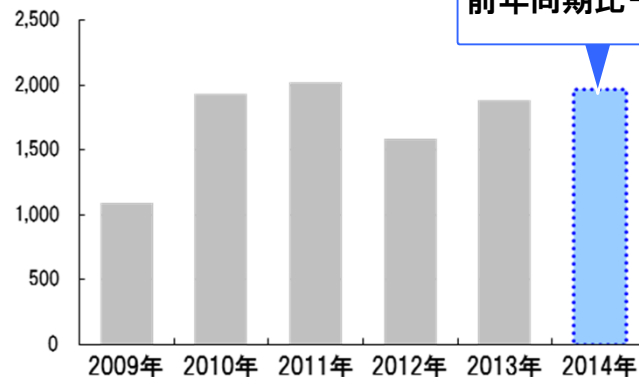
収益を上げ成長する事業基盤構築の好機

【工業用マシンと産業装置の市場規模】

《工業用マシン[製品]》

＜市場規模＞

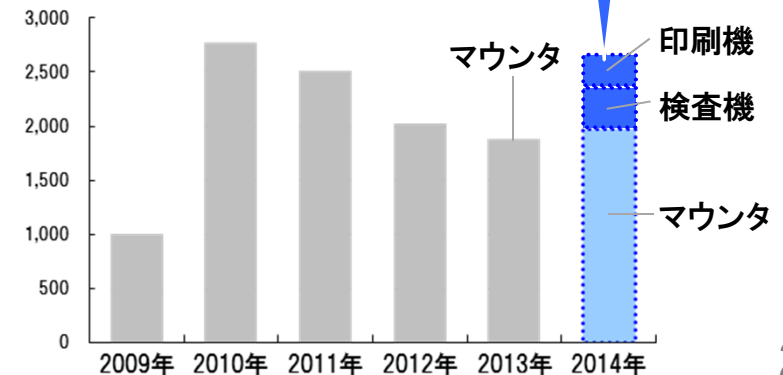
(億円) ※データ: 自社推計



《産業装置》

＜市場規模＞

(億円) ※データ: 自社推計

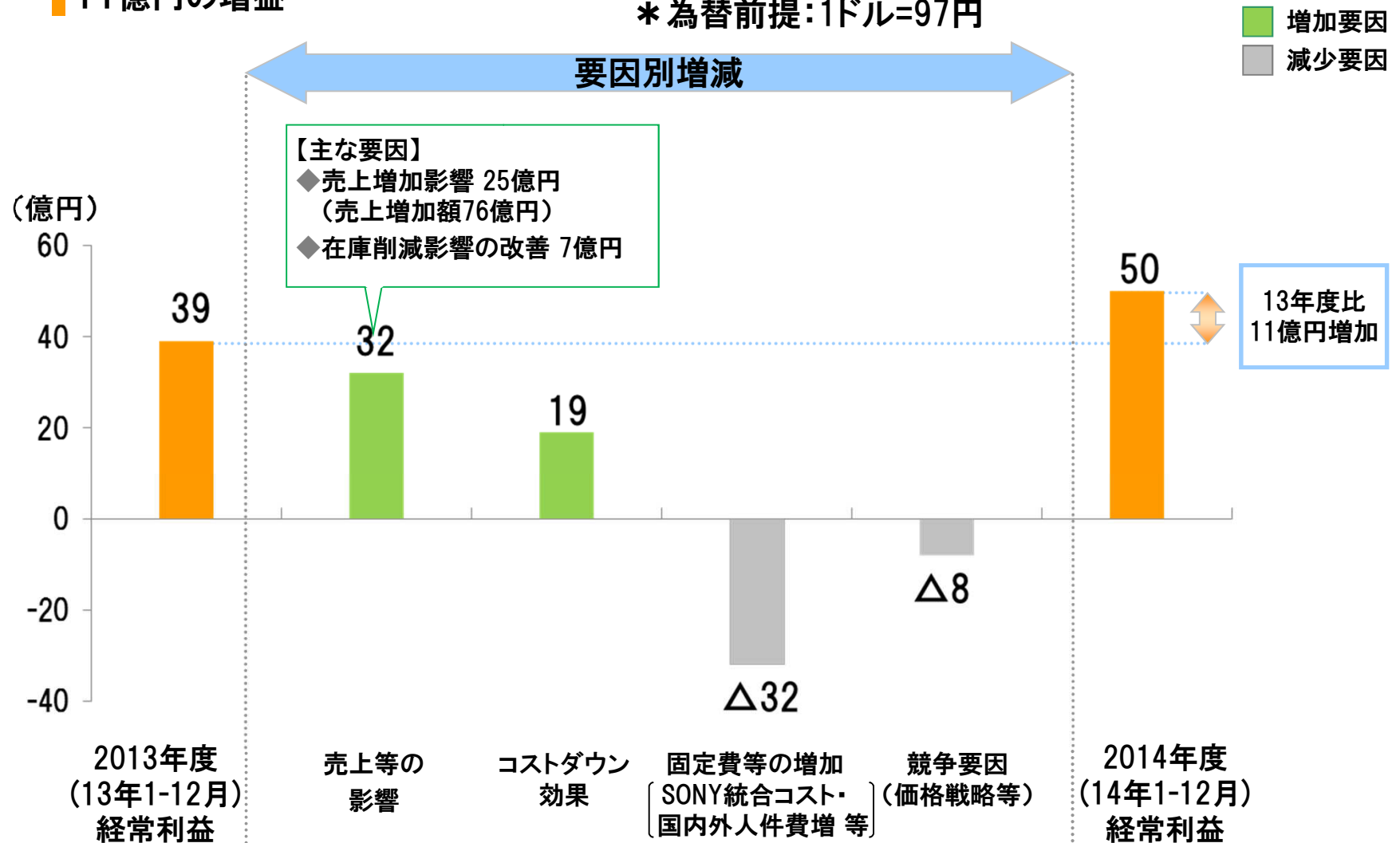


検査機、印刷機市場への新規参入により、市場が拡大

		(億円)		
		2014年度通期 (1-12月) 業績予想	2013年度通期 (1-12月) 実績	増加額 (増加率)
売上高		1,020	944	76 (8.1%)
営業利益		63	52	11 (21.2%)
経常利益		50	39	11 (28.2%)
当期純利益		37	30	7 (23.3%)
配当		2円/株	0円/株	2円/株
為替レート	ドル	97円	97円	0円

売上等の影響(32億円)とコストダウン効果(19億円)により、コストアップを吸収し、11億円の増益

* 為替前提: 1ドル=97円



縫製機器 [工業用マシン]

市場戦略

- ・東南アジア、南アジア等の新興国及び、中南米、アフリカ、中近東での販売拡大に注力

業種別戦略

(1)ノンアパレル ノンアパレルカンパニー設置(2012年12月)

- ・新製品(LU、PLC、AMS)による、自動車、スポーツシューズ、家具市場等の攻略



PLC-2700シリーズ

(2)ニット ニットカンパニー設置(2013年10月)

- ・新製品(MF7500/7900)及びシルバ社とのアライアンス活用



MF-7500(D)シリーズ

(3)自動機 自動機営業グループ設置(2013年8月)

- ・布帛の強みを活かした、ラインソリューション営業の強化

縫製機器 [家庭用ミシン]

家庭用ミシンユニット設置(2013年10月)

市場戦略

- ・工業用ミシンの販売ネットワークに加え、米国、欧州等での独自のマーケティング手法を活用し販売拡大

商品戦略

- ・新製品(MO-1000/ロックミシン及びTL-2200QVP/キルトミシン)による販売拡大
- ・アライアンスの活用



家庭用小型ロックミシン
シュルル(MO-1000ML)

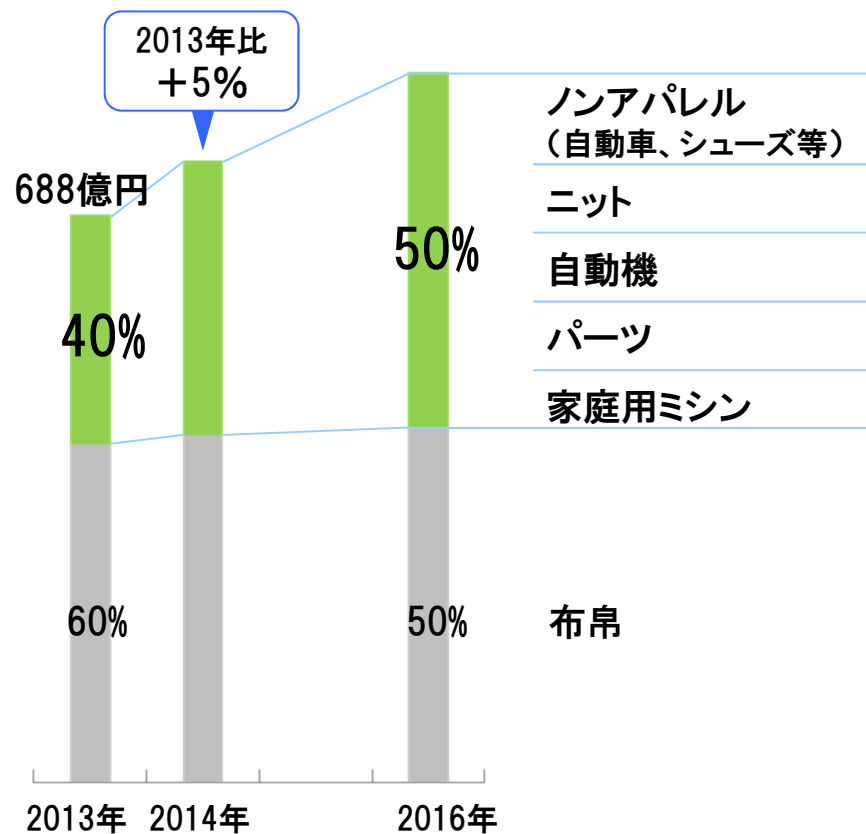


キルトミシン
(TL-2200QVP)

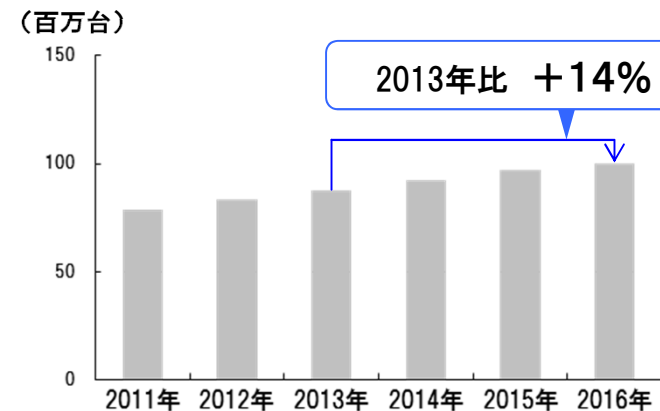
縫製機器の中期戦略

ノンアパレル、ニット、自動機、家庭用ミシン等により事業領域を拡大

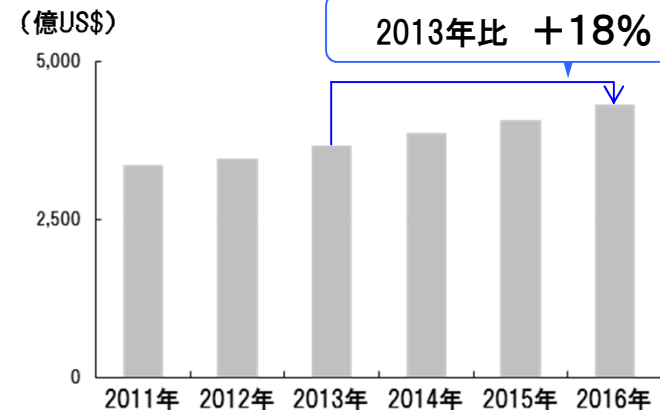
【縫製機器事業の売上構成イメージ】



【自動車市場】 ※データ: 自社推計



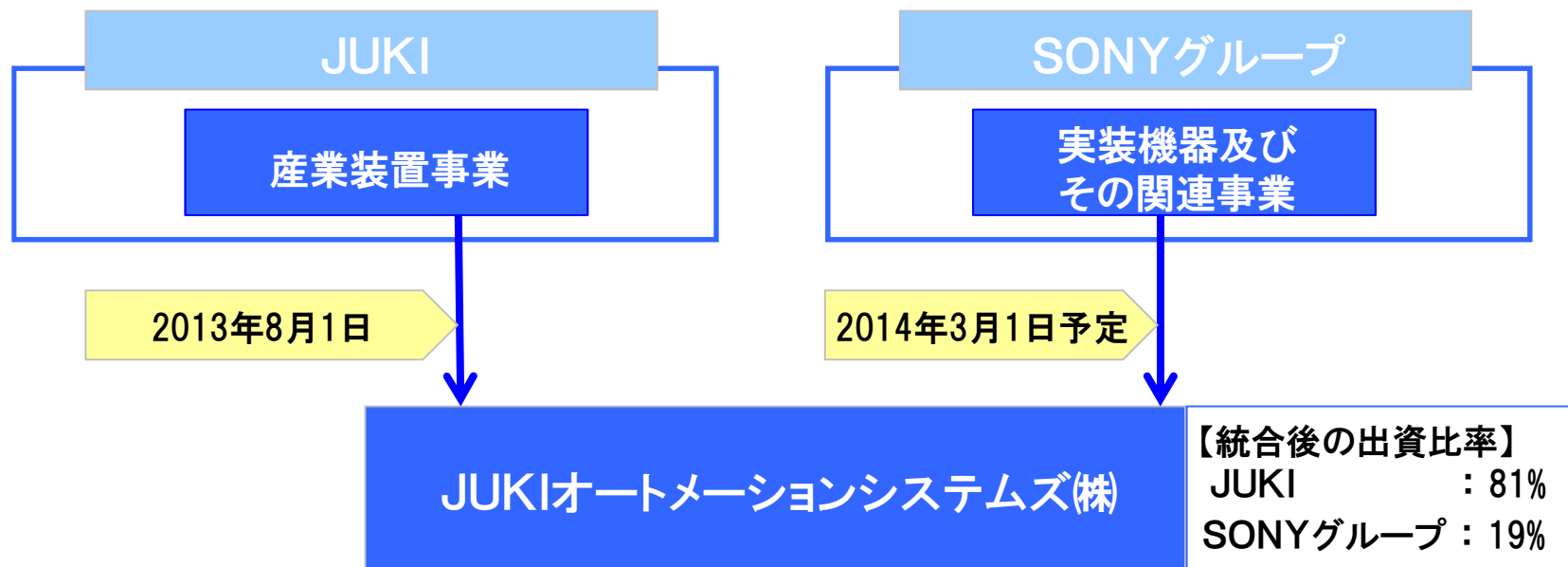
【シューズ市場】 ※データ: 自社推計



産業装置

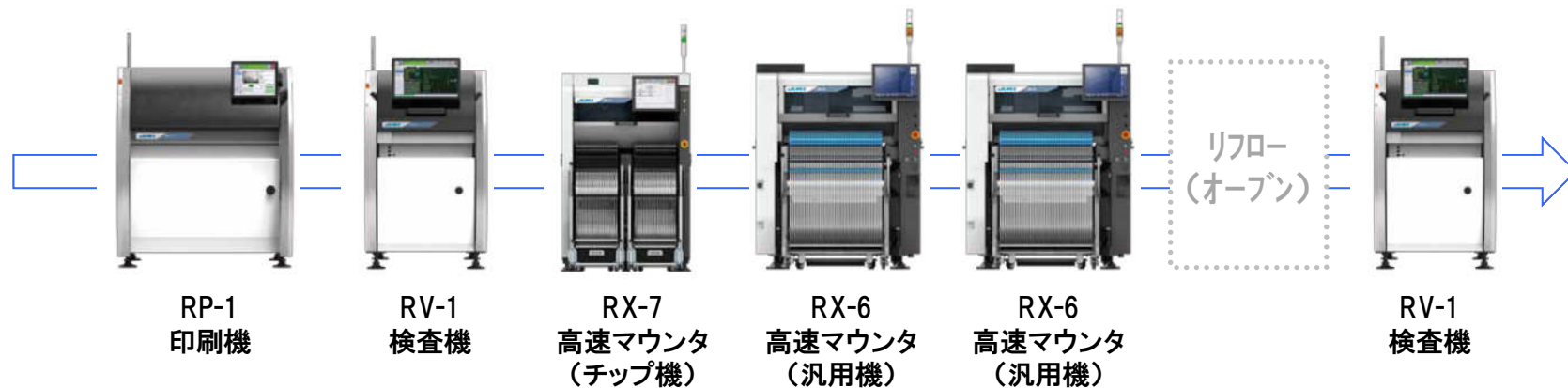
SONYグループとの事業統合(合併会社設立)

- 2013年8月1日:JUKIオートメーションシステムズ(株)設立
- 2014年3月1日(予定):SONYグループとの合併会社スタート



SONYグループとの統合による製品ラインアップの拡充により、ソリューションビジネスを展開

【JUKI製品のライン(標準ライン例)】



マウンタの単品販売から、お客様のライン全体の課題を解決する「ラインソリューション」へ、ビジネスモデルを転換

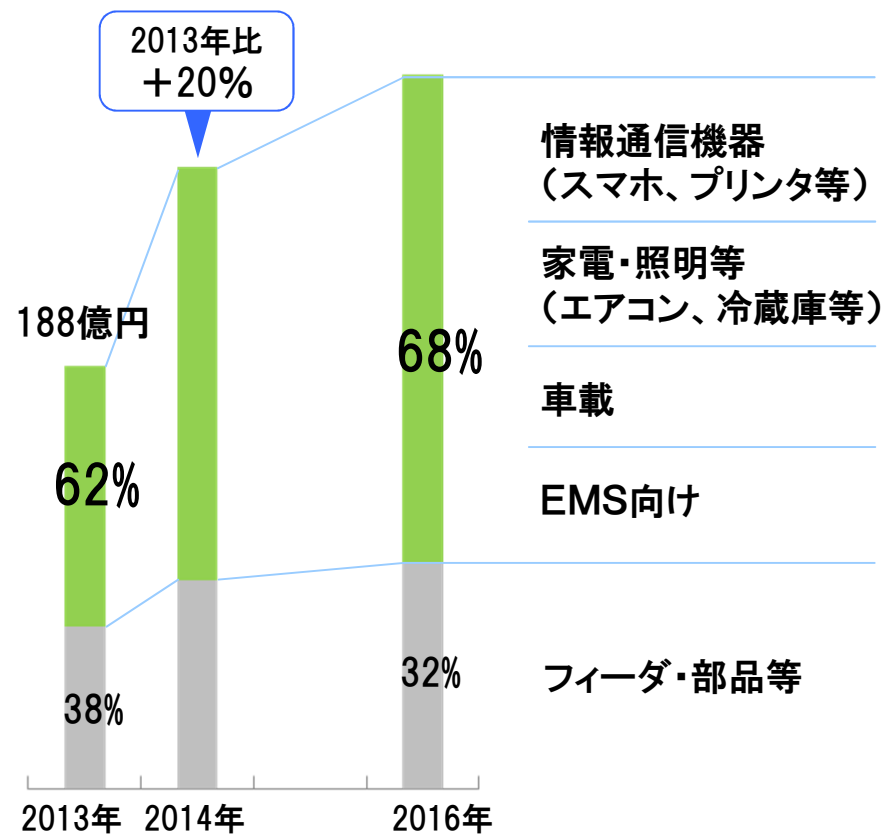
ロボット事業

・省人化マウンタ(JM-10、JM-20)のロボット事業への展開

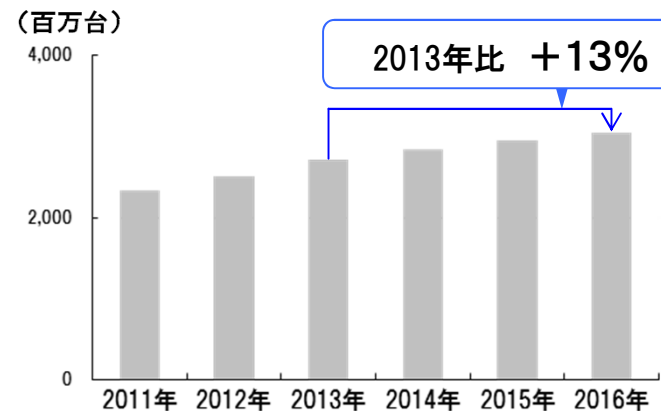
産業装置の中期戦略

情報通信機器、家電、車載等の分野で事業領域を拡大

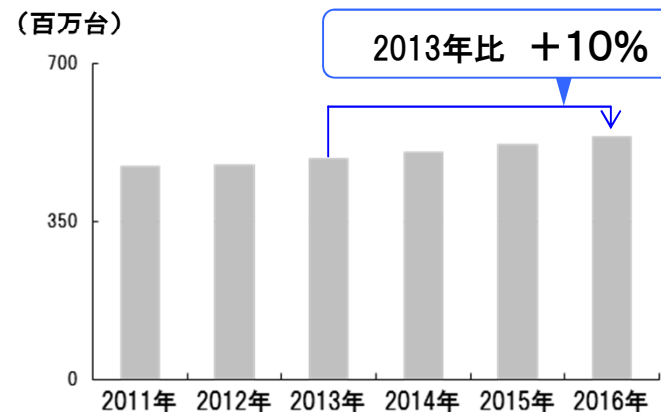
【産業装置事業の売上構成イメージ】



【情報通信機器市場】 ※データ: 自社推計

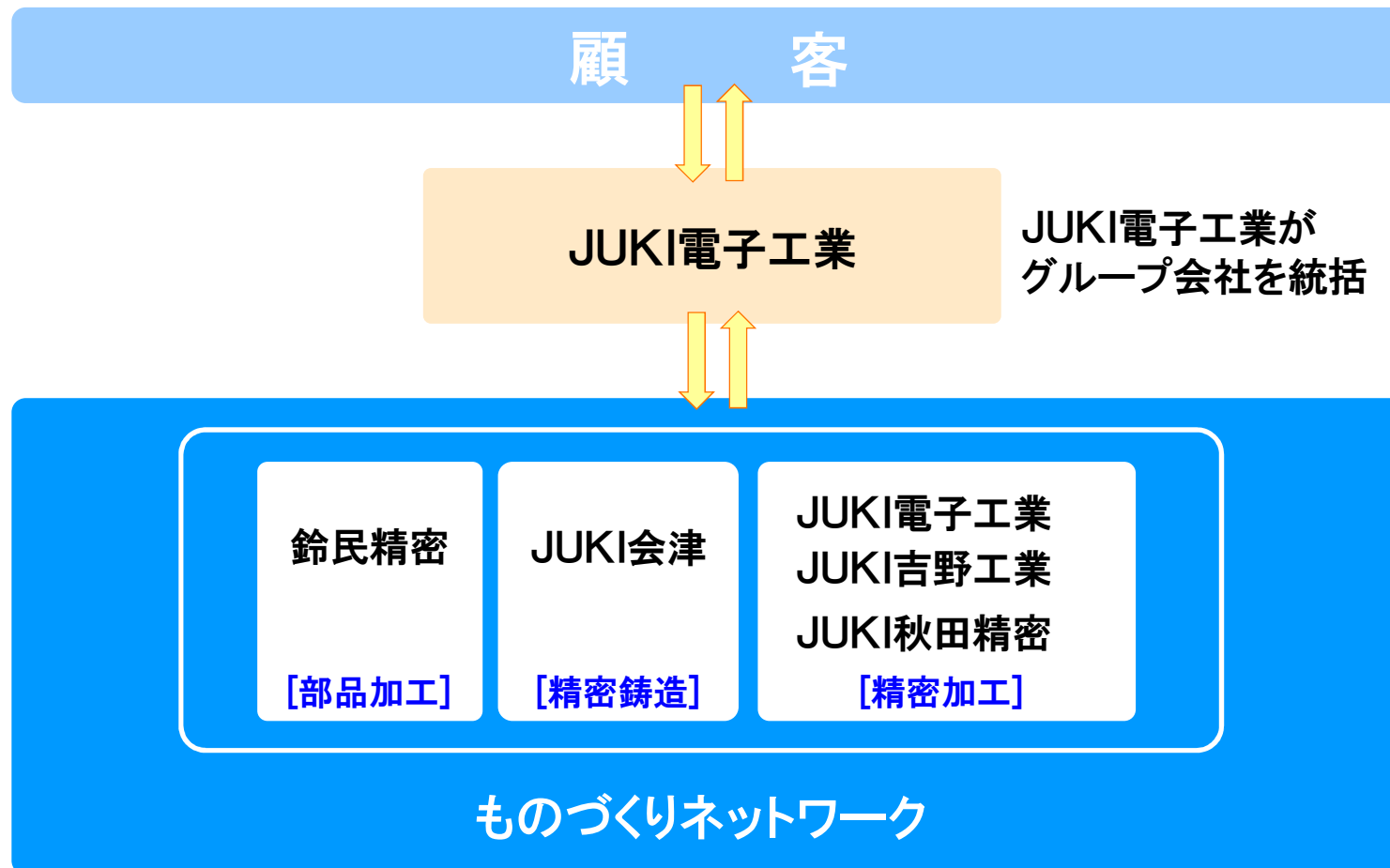


【家電市場】 ※データ: 自社推計



グループ事業

JUKI電子工業が主導し、各グループ会社の持つ精密加工や精密鑄造技術を活かし、グループの連携を強化することで、事業を拡大する



本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。

JUKI株式会社

お問合せ先： 総務部 総務・広報グループ 担当：寒川^{そう がわ}

TEL :042-357-2398 FAX :042-357-2399

ホームページURL： <http://www.juki.co.jp/>